



Title	Layamon's Brut と Wace の Le Roman de Brut
Author(s)	福井, 三奈子
Citation	Osaka Literary Review. 1971, 10, p. 51-77
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/25711">https://doi.org/10.18910/25711</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

福 井 三 奈 子(秀加)

### — はじめに —

イギリスにノルマン王朝が築かれ、プランタジネットの Henry II 世がイギリスの覇者として国を治めていた頃に、ノルマンの詩人 Wace は年代記 *Roman de Brut* 「ブリュ物語」(Ca.1155) を書いてそれをヘンリー II 世の后 Eleanor に献呈した。この Wace の列王記の中に現われるブリテンの王者達の中でアーサー王と彼を取巻く円卓の騎士の肖像はフランス文学では12世紀の詩人 Chrétien de Troyes (1135—90?) の宫廷文学や、Marie de France (12世紀後半) の短詩の中に受継がれてゆき, roman courtois の題材となつた。

それから凡そ50年後, *Roman de Brut* はまた、ウスタシャーの僧侶 Layamon が Early Middle English で書いた *Brut* (Ca.1205) の原典となつたのである。そして Layamon の *Brut* も其の後の英文学に現われるアーサー王物語の発展に寄与することになる。

Layamon は Wace の *Brut* を自由訳して、物語の構成から叙述の順序迄殆んど其尽に Wace をうつし取つた。

物語はイギリス建国伝説の王者 Brutus の曾祖父にあたる Eneas が新天地を求めてトロイを逃れる所から始まってブリトン人の Albion 定住, 其の後國威を輝かせるアーサー王の偉業が情熱的に語られてゆき (アーサーに関する物語に Wace も Layamon も全体の三分の一を費している), ブリトン最後の王 Cadwalader (689 A. D.) が国をサクソン王 Athelstan の統治にゆだねて島を離れ, その子孫がウェールズに戻つて落着く所で話は終つている。

Wace の octosyllabic couplet 14866行 (Ivor Arnold 編) は Layamon では hemistichs の32241行 (Francis Madden 編) になっている。Wace と比べて Layamon の詩行の長々しいのは彼が物語を進める時に登場人物の会話を沢山とり入れたり、Wace の叙述を更に詳しく説明したり、彼独自の挿話をつけ加えたりしているためである。

このワースとラーヤモンの *Brut* 物語を比べた時にラーヤモンの特徴として先づ挙げられて来た事は OE heroic poetry の伝統を色濃く受継いでいる彼の Englishness<sup>1</sup> である。ラーヤモンはワースを訳したのであるが、訳出にあたってラーヤモンの醸し出したアングロ・サクソン的な英雄詩の雰囲気を強調するあまりに、彼が *Brut* に描いた世界は古代的であってワースの描き出したロマンス風の騎士の社会とは対照的であるときめたり、ラーヤモンひとりが *Brut* の中で残忍で野蛮な特徴を持っているかの様な評価を与えることには一考の余地があると思われる。

そこでこの小論は実際にワースとラーヤモンのテキストを並べて検討し、果して彼等の描いた *Brut* の世界は大層違ったものなのか、ワースはどの様にラーヤモンに受継がれていったのかを探ってみようとするものである。つまりラーヤモンがどの程度 archaic であり less sophisticated<sup>4</sup> なのか調べたいと思う。それから両者を比較する事によって当然浮かび上って来るワースの特徴的なフランス風嗜好やラーヤモンのアングロ・サクソン的気質にも焦点をあててみたいのである。以下問題を 5 つの項に分けて話を進めよう。

第Ⅰは中世のロマンスに織込まれてくる女性との恋愛関係の描写や roman courtois で troubadour が語った woman-worship と courtesy がどの程度に Wace と Layamon に現われてくるかを調べ、

第Ⅱは Wace と Layamon の描く King Arthur と円卓の騎士達の肖像には果して大きな差異があるのだろうかと検討し、

第Ⅲは Layamon に対する一つの批評から彼の特徴といわれる ferocious-

nessについてWaceと対比して考え、

第Ⅳは*Roman de Brut*を翻訳するにあたってLayamonがみせるAnglo-Saxon気質から彼のEnglishnessの一つの特徴を明らかにし、第ⅤはLayamonのイギリス人らしさと好対照をなすWaceのフランス的な嗜好を全篇を通じて考察する。それはcourtly sentiment<sup>5</sup>であるよりむしろ彼のNorman gaitinessであるようだ。その具体的特徴をテクストからとりあげる。

## I

婦人に対する愛情や優しい心づかいを描く点ではLayamonはWaceより多少ひかえ目でこそあれ、決してひけを取らない。我々はまづ女性への恋心の描写を、アーサーの父王ユーサーがコーンウォール公ゴーロイスの妻イガーナに横恋慕する場面に認めることができる。（彼女は後にユーサーの子を宿しアーサー王を生む）

Ygerne . . .  
 Curteise esteit e bele e sage  
 E mult esteit de grant parage.  
 Li reis en ot oï parler  
 E mult l'aveit oï loer;  
 Ainz que nul semblant en feist,  
 Veire assez ainz qu'il la veïst,  
 L'out il cuveitee e amee,  
 Kar merveilles esteit loee.  
 Mult l'ad al mangier esguardée,  
 S'entente i ad tute turnee.  
 Se il mangout, se il beveit,  
 Se il parlout, se il taiseit,  
 Tutes eures de li pensot

E en travers la regardot.  
 En regardant, li surrieit,  
 E d'amur signe li faiseit.  
 Par ses privez la saluot  
 E ses presens li enveot,  
 Mult li ad ris e mult clunied  
 E maint semblant fait d'amistied  
 Ygerne issi se conteneit  
 Qu'el n'otriout ne desdiseit.

Wace *ll.* 8575—8596

þe king sende his sonde  
 to Igærne þere hende.  
 Gorlois eorles wif  
 wifmone alre hendest.  
 Ofte he hire lokede on  
 & leitede mid eȝene.  
 ofte he his birles sende  
 fron to hire borde.  
 ofte he hire loh to  
 & makede hire letes.  
 and [heo] hine leofliche biheold  
 ah inæt whær heo hine luede.  
 Næs þe king noht swa wis  
 ne swa ȝære witele.  
 Þ imong his duȝþe  
 his þoht cuðe dernen.

Layamon *ll.* 18534—18549<sup>6</sup>

Uther は Gorlois に伴われて王の饗宴に列席した Igerne をみぞめるのである。Wace のユーザーはイガーナを恋して食べる間も、飲む間も、話す間も、黙っている間も、彼女を想い、彼女を見詰めて微笑みかけ、愛の合図を送る。Layamon のユーザーも負けてはいない。彼は度々酌人を彼女の食卓へとつかわし、彼女を見詰めて笑いかける。彼は彼の心を隠すことが出来ない。ユーザーは遂にイガーナに恋ぐるいをして股肱の重臣の Ulfen に何とかしてくれなければ彼女恋しさの余りに死んでしまうなどと言う。

L'amur Ygerne m'ad surpris,  
 Tut m'ad vencu, tut m'ad conquis,  
 Ne puis aler, ne puis venir,  
 Ne puis veillier, ne puis dormir,  
 Ne puis lever, ne puis culchier,  
 Ne puis beivre, ne puis mangier,  
 Que d'Ygerne ne me suvienge:  
 Mais jo ne sai cum jo la tienge.  
 Morz sui se tu ne me conseilles.

W. ll. 8659—8667

Ulfen ræd me sumne ræd  
 oðer ich beo ful raðe dæde.  
 swa swiðe me longeð  
 þ ne mai i noht libben.  
 after þere faire Ygærne

L. ll. 18718—18722

この様に Wace も Layamon もユーザーの恋情をロマンスの主人公の雰囲気で以て描き出している。また、アーサーが王妃グィニヴァを大切にしていたことは、簡単な passage においてではあるが、Wace と Layamon

が異口同音に記している。

‘Artur l'ama mult e tint chiere;’ (W. I. 9656); ‘Arður heo nom to wife/ & luuede heo wunder swiðe,’ (L. II. 22241—22242).

Woman-worship の精神や courtoisie (curteisie)<sup>7</sup> は Layamon にはまた鮮明に現われず、Wace の所々に瞥見出事るのであるが、*Roman de Brut* で amour courtois を思わせる言葉は円卓の騎士の交わす冗談と、アーサーの戴冠式に參集する騎士の資格を述べた所の中に散見出来る程度である。<sup>8</sup> この言及を全篇の中からとりあげ殊更重視して、Wace の物語の特徴は courtly sentiment であると言い、Layamon の描いた *Brut* の世界を Wace から昔に溯った古い社会であるかの様に考えるのには疑問の余地があろう。

## II

Wace の騎士達は Layamon の武将達の住む世界からかけ離れた、中世封建社会の住人であってロマンス風の騎士であると殊更に強調するのは危険なのである。

Wace のアーサー像は courtoisie を心得た王様であって確かに Layamon のアーサーと比べると洗練されている。礼節正しさ、生まれの良さ、勇気のあること、気前の良さに於て他の君主を凌駕しているのだが (ll. 9030—9032), 彼はまた、強くて剛胆で勝ち誇っている自信満々の王者でもあるのだ。名声を愛し、名誉を愛し、ほまれの名を残さんと望む英雄である (ll. 9021, 9025—9026)。

Les thecches Artur vus dirrai,  
Neient ne vus en mentirai;  
Chevaliers fu mult vertuous,  
Mult fu preisanz, mult glorijs;  
Cuntre orguillus fu orguillus  
E cuntre humles dulz e pitius;

Forz e hardiz e conqueranz,  
 Large dunere e despendanz ;  
 E se busuinnus le requist,  
 S'aider li pout, ne l'escundist.  
 Mult ama preis, mult ama gloire,  
 Mult volt ses faiz mettre en memoire,  
 Servir se fist curteisement  
 Si ce cuntint mult noblement.  
 Tant cum il vesqui e regna  
 Tuz autres princes surmonta  
 De curteisie e de noblesce  
 E de vertu e de lergesce.

W. ll. 9015—9032

Eugene Mason はアーサー像を次の様に現代語訳した：

He was a stout knight and a bold: a passing crafty captain,  
 (Forz e hardiz e conqueranz, *l.* 9021,) ..... He was one of Love's  
 lovers; a lover also of glory; and his famous deeds are right fit  
 to be kept in remembrance, (Mult ama preis, mult ama gloire, /  
 Mult volt ses faiz mettre en memoire, *ll.* 9025—9026).

‘preis’ は戦による名声だけではなく、淑女を礼讓を以て愛する能力をも評価の中に含んでいる。<sup>10</sup> 同様に ‘conqueranz’ も征服者として勝ち誇っているだけではなく、異性に対する自信満々の意味があるが、此処では女性への愛だけに ‘preis’, ‘conqueranz’ を解釈してよいだろうか。Mason は ‘Mult ama preis,’ を ‘He was one of Love's lovers,’ と訳したが私は ‘アーサーは名声を大層愛した’ と直訳して、この ‘名声’ を愛する能力の評価だけではなく、むしろ戦う力を多分に合せて評価するものと考えたい。

Wace の Artur は chanson de geste に描かれている heroic age の英

雄の美德を具えている。彼のイメージはアングロ・サクソンの伝統的な英雄像を継承している Layamon の Arður とさしてかけ離れてはいない。何となれば英雄時代の hero の美德は広い世界に共通したものであるから。

Da þe Arður wes king  
 hærne nu seollc þing.  
 he wes mete-custi  
 ælche quike monne.  
 cniht mid þan bezste  
 wunder ane kene.  
 he wes þan ȝungen for fader  
 þan alden for frouer.  
 and wið þan vnwise  
 wunder ane sturnne.  
 woh him wes wüder lað  
 and þat rihte a leof.  
 Ælc of his birlen  
 & of his bur-þæinen.  
 & his ber-cnihtes  
 gold beren an honden.  
 to ruggen and to bedde  
 iscrud mid gode webbe.  
 Nefde he neuere nænne coc  
 þ he nes keppe swide god.  
 neuær nanes cnihtes svein  
 þat he næs bald þein.  
 Þe king heold al his hired  
 mid hæȝere blise.

& mid swulche þinges  
 he ouer-com alle kinges.  
 mid ræhzere strengðe  
 & mid riche-dome.  
 swulche weoren his custes  
 þat al uolc hit wuste.  
 Nu wes Arður god king  
 his hired hine lufede.

L. ll. 19930—19961

Layamon は Wace の詩行 ‘Servir se fist curteisement / Si ce  
 cuntint mult noblement.’ (ll. 9027—28) を具体的にアーサーにはべる  
 従者の様子を述べて説明し、翻訳しようと試みている様だ (L. ll. 19942—  
 19952)。Arður はまた, Germanic hero で, brave, daring, boast-uttering,  
 boast-performing, hostage-hanging king<sup>11</sup> であるといわれるがこれは  
 Layamon の Arður に限らない。Wace の Artur も又而り, fierce  
 king<sup>12</sup> なのだ。

Wace の chevaliers はロマンス風の騎士というより, Chanson de  
 Roland のシャルマーニュの12臣将の如くに, ‘Les vaillanz humes les  
 meillurs, /Les plus hardiz cumbateûrs,’ (W. ll. 9865—9866) であつ  
 て, 王に生死をゆだねて戦に明け暮れ, 目ざましい手柄をたてゝは太っ腹  
 のアーサーから褒賞を授かる剛勇の武将達である。御婦人の愛を求めて武  
 者修業に専念する騎士の姿は Wace の Brut に見られない。それらしい  
 騎士の姿勢への言及はほんの数行である。

### III

Layamon は僧職にありながら残忍な心を持っていたという批評がある。  
 R. S. Loomis は特に彼の野蛮な一例としてアーサーが Yuletide efeast で  
 宴席の順列優劣争いを起した張本人一族の男達の首をはねさせ, 女達の鼻

をそがせる描写をとりあげている。然しアーサーは ‘… wið þan vñwise/<sup>13</sup> wunder ane sturnne. ‘(ll. 19938—39) なのだから味方同志でアーサー王のクリスマスの饗宴に血を流す争いを起したおろか者の一族に厳しい罰を与えるのは不自然ではない。Wace はこの紛争については特に何も記していないからこれは Layamon の補足であろうが、この争いと懲罰のいきさつは、この様なつまらないさかいが二度と起らぬために皆が平等に坐れる円卓をアーサーが採用するという話の導入部になって、円卓の謂が生影を帶びて印象づけられてくるのであるから、ここでは我々は Layamon の残酷性を論ずるより物語作家としての彼の巧みさを買って然るべきかと思う。Layamon だけが ferocious であるというのは片手落ちだ。このような懲らしめは殊更彼が考え出したわけではないのだから。殺戮の残酷な場面は Wace にも描かれている。例へばブルータスがイギリスの国統一に至る過程に獅子奮迅のいくさをする時、Wace の描写は生々しく残酷である。

Li Greu esteient endormi;  
 Ainz que il fussen estormi,  
 Out par les très maint cop doné,  
 Maint puin, maint braz, maint pié copé,  
 Espandue mainte cervele  
 E perciee mainte büele.

W. ll. 467—472

his horn he vastliche bleu.  
 Iherden hit Troynisce  
 & tuhten to þon Gricken.  
 heo heom aweihten  
 mid heora wæles igrure.  
 Þar fluwen haueden on felde  
 fæiðe þer feollen.

moni hond moni fot  
 þe hæp wæs þe wrse.

L. ll. 808—816

*Brutus* のひきいるトロイの軍勢は眠っているギリシャ軍に不意打をかけ、こぶしや腕や足を沢山ちょん切り、脳みそを飛び散らし、いたる所で腸を突きやぶる。この場合 Layamon はどうかというと、‘þar fluwen haueden on felde/ . . . /moni hond moni fot’とWace を真似てはいるがそれ以上具体的に残酷な描写を続けず、O E 風 epic formulæ の‘fæiðe þer feollen’を使い、‘þe hæp wæs wrse.’と切上げてしまっている。

Wace の円卓の騎士達も仲々 savage である。ローマの皇帝 *Lucius* のもとへ使者として迎られた Guerin, Boso, Gawain の3人の中でガーウェインは使者の役目も果さぬうち、皇帝に縁続きの Quintilain の言葉が気に喰わぬからと、いきなり彼を叩き切り3人がたふたと逃げ帰る話は Wace も Layamon も変らないが、Wace のガーウェインが「御免」とも断らずに馬に飛び乗るのに対して (W. ll. 11757—11760), Layamon のガーウェインは「我々を追って来られる勇敢なお方がおられても、私は容赦なく刀で叩きりますぞ」と少くとも断りの捨てゼリフを残す (L. ll. 26465—26470)。果してどちらのガーウェインが野蛮であろう。

## IV

Dorothy Everett は Layamon のイギリス人らしさを、彼が Wace のフランス風 *Brut* を訳した際にその拠り所とした伝統的な Old English の英詩の概念、古きものへの強い憧れを示した彼の詩作の方法に認めている。いくさの身ごしらえをするアーサー王のいでたちを語る Layamon の言葉から Everett は *Beowulf* を連想する。<sup>15</sup> 確かに、Layamon の戦いの描写は古代英語で書かれた battle song の雰囲気を彷彿とさせる。Layamon がこの意味でイギリス的なのには言う迄もないが、此の項では、

Layamon が示すアングロ・サクソン気質を *Brut* に登場する戦士達の会話の中から Wace と対比して摺り上げてみようと思う。

ブルータス勢の勢いに押されて浮足立った Poitou 王 Goffer のひきいる軍勢にブルータスの重臣の一人 Corineus は‘敵に後を見せるとは卑怯なり’と大みえ切って呼びかけるのであるが、Wace の描くコリネウスの叩く大口と、Layamon の描くコリネウスの生真面目な説教風の詰問調とは面白い対照をなしている。

Vus fuiez trop vilainnement  
 Ki fuiez pur mei sulement;  
 Ja estes vus plus d'un millier  
 Si fuiez pur un chevalier.  
 Ne savez cele part fuir  
 Que jo ne vus face murir;  
 Mais riches conforz vus puet estre  
 Que vus murrez od ceste destre  
 Dunt jo ai maint bon cop duné  
 E maint millier d'omes tué  
 E maint gaiant par mi trenchié  
 E en enfern maint enveié.  
 E quatre e quatre, e treis e treis,  
 Venez ça, ferez demaneis !

W. ll. 887—900

Goffar mid þire ferde  
 wi wolt þu fleam makian.  
 Ne miht þu na wiht so fleon  
 ȝif þu us wlt heonne fleman.  
 þu most swiþer fehten

er we heonne iwenden.

L. ll. 1576—1581

‘私一人のために逃げるとはふらち千万……いや、だが御安心召されい。御前がた死ぬのは僕のやっつけた御連れと一緒にだからな。何千人も殺して、大男の首をはねて地獄へ送り込んでやりましたぞ。さあ、三人づつでも四人づつでもかゝって来なされ。’

と Wace は皮肉たっぷりなのだ。Layamon の方は、「ゴファーよ何故軍勢を引き連れて逃げるのだ、我々を此の地から追い払うつもりなら逃げてはならぬ。我々が退却するより先に貴殿はしっかり戦うべきですぞ。’と至極御尤なことを言って敵を呼び戻そうとするのである。Wace の物語を大体に於て内容を変えずに写し取っている Layamon なのであるが Wace がひとたびフランス風のからかいや、駄洒落や、軽口を叩き始めると Layamon は其の個所を削除するか、或いは彼独特の生真面目な精神で翻訳してしまう。

Layamon のこの特徴はローマ皇帝 Lucius からアーサーの恭順を強要する使者の到来に接して、善後策を講ずるために召集された騎士達の間に交される会話にも認められる。

Quant Cador dist en suzriant,  
Oiant le rei, ki ert avant:  
En grant crieme ai, dist il, esté,  
E mainte feiz en ai pensé,  
Que par oisdives e par pais  
Devenissent Bretun malveis.  
Kar oisdive atrait malvaistied  
E maint hume ad aperecied.  
Uisdive met hume en peresce,  
Uisdive amenuse prüesce,

Uisdive esmuet les lecheries,  
 Uisdive esprent lé drueries.  
 Par lunc repos e par uisdice  
 Est juvente tost ententive  
 A gas, a deduit e a tables,  
 E a autres geus deportables.  
 Par lunc sujur e par repos  
 Poüm nus perdre nostre los.  
 Pose avum esté endormi,  
 Mais Damnedeu, sue merci,  
 Nus ad un petit resveilliez,  
 Ki Romains ad encuragiez  
 De chalengier nostre païs  
 E les autres qu'avum cunquis.

W. *ll.* 10735—10758

þa stod þer up Cador  
 þe eorl swiðe riche ær.  
 and þas word sæde  
 bifore þan riche kinge.  
 Ich þonkie mīe drihte  
 þat scop þes dæies lihte.  
 þisses dæies ibiden  
 þa to hirede is iboȝen.  
 and þissere tidinge  
 þe icumen is to ure kige.  
 þat we ne þuruȝen na mare  
 aswunden liggen here.

For idelnesse is luðer  
 on ælchere þeode.  
 for idelnesse makeð mon  
 his monscipe leose.  
 ïdelnesse makeð cnihte  
 for-leosen his irihte.  
 idelnesse græiðeð  
 feole uuele craften.  
 idelnesse makeð leosen  
 feole þusend monnen.  
 þurh eðeliche dede  
 lute men wel spedeð.  
 For ȝare we habbeoð stille ileien  
 ure wurðscipe is þa lasse.  
 ah nu ic þokie drihtne  
 þæ scop þas dæs lihte.  
 þat Romanisce leodē  
 sunden swa ræie.  
 & heore beot makieð  
 to cumen to ure burhȝes.

L. ll. 24899—24930

Cornwall の Cador は戦が始まりそうでやれやれだとばかりの口調で… ‘暇があつて平和ですと、我々は悪くなりますな。無為はろくなことにならない…’。と口を開く。 Wace のカードー公が ‘Uisdive met hume en peresce, / Uisdive amenuse prüesce,’ / Uisdive esmuet les lecheries, / Uisdive espreut lé drueries.’ (ll. 10743—46) と得意の repetition を始めると Layamon はその口調を取つて ‘… idelnesse

makeð mon/his monscipe leose. /ydelnesse makeð cnihte/for-leosen his irihte./idelnesse græiðeð/feole uele craften. /idelnesse makeð leosen/feole þusend monnen. /þurh eðeliche dede/lute men wel rpedeð.' (ll. 24913—22) この様に真似ているが、彼は Wace の ‘Quant Cador dist en suzriant’(カードーが笑いながら言った… ) という言葉を訳さなかった。 Layamon は重大な会議の討論をにこにこと冗談まじりに話す態度が納得出来なかったのか或いはそれは彼の生真面目な性格の好みに合わなかったのでもあろうか。

カードー伯に答える Wace の Gawain [Walwein] は、「殿、何卒そうお怒りになられますな、いくさの後の平和は宜しいものにござります。土地は美しくも豊かにもなります。まことに、巫山戯ますのも、御婦人との愛も結構なことで、恋人のため、愛を獲得するために騎士達は騎士道に励みます。」と軽く応酬する。

Layamon のガーウェイン [Walwain] は真正面から怒ってカードーに反対し、平和は神聖なる神の創り給うた誰にも結構なもので、平和は善良な人間に善行をさせるのです、と真面目くさってカードーに喰ってかゝっている。

«Sire cuens, dist Walwein, par fei,  
De neient estes en effrei.  
Bone est la pais emprés la guerre,  
Plus bele e mieldre en est la terre;  
Mult sunt bones les gaberies  
E bones sunt les drueries.  
Pur amistié e pur amies  
Funt chevaliers chevalerries. »

W. ll. 10765—10772

Pat iherde Walwain

þe wes Ardures mæi.  
 and wraðede hine wið Cador swide  
 þa þas word kende.  
 and þus andswærede  
 Walwain þe sele.  
 Cador þu ært a riche mon  
 þine ræddes ne beod noht idon.  
 for god is grið and god is frið  
 þe freoliche þer haldeð wið.  
 and godd sulf hit makede  
 þurh his godd-cunde.  
 for grið makeð godne mon  
 gode workes wurchen.  
 for alle monnen bið þa bet  
 þat lond bið þa murgre.

L. ll. 24949—24964

Layamon の騎士達は優しい気持は持ち合わせていても冗談をいわない。Wace は此處ではロマンスの騎士の宮廷風な姿を隙間見せて呉れている。それに対して Layamon のガーウェインは説教臭い坊様のようだ。Cador と Gawain の軽快なフランス風の軽口の応酬は Layamon の苦手とする所である。二人の会話を大真面目な論争に変えてしまった。これは Layamon の職業がらというだけではなく彼の生来の生真面目なアングロ・サクソン気質が彼の文学にうつり伝わっているように我々は思う。

V

Layamon のアングロ・サクソン気質に対して Wace のフランス人的嗜好が見られるのは彼が当時親しんでいたアンジェヴァンの宮廷の模様をうつし入れたと思われるアーサー王の戴冠式の華やかな祝宴の様子である。

式の模様は Wace も Layamon も共にアーサー王宮廷の富と権勢を示す豪華絢爛さを以て描いている。豪華さという点だけを挙げれば、あまたの従者、給仕人の末に至る迄きらびやかに純金で装っている Layamon のアーサー宮廷が勝っているやも知れぬ。然し祝宴の酒盛りも果てゝ其の後の競技となると、Wace の描く宮廷の淑女は如何にもフランスの女性らしく生々しいあでやかさを現わして来る。彼女達は余興の競技者をみるために壁へ登り意中の人を見付けると秋波を送り、顔を振向ける (W. II. 10539—42)。Layamon の貴婦人は Wace の淑女達よりもおとなしい。彼女達は壁によりかゝって競技の面々を眺めるのである (L. II. 24713—24720)。

さあそれからの余興となると、Wace の雄弁はにわかに活気を帶びて来る。彼はフランス風の賑やかで華やかな情景を満喫させてくれる。宮廷には軽業師や、歌い手、楽師、勝負師が集まり、武勲詩や恋のうたや、手回し琴弾きの唄や、評判の詩やハープやフリュート伴奏のうたなどが聞かれる。堅琴、太鼓、笛、管絃樂、七絃琴、一絃琴、ティンパニー、トランペットと楽器の賑やかな音色の中にダイスとテーブルを持って来させている声も混じる。喧嘩をしたり叫んだり、「お前はごま化しただろう、外へ投げろ、掌を動かして骰子を振れ！」等と聞こえて来る。沢山着込んでいた者が身ぐるみはがれてゆく情景も見られる。

Quant li reis leva del mangier,

Alez sunt tuit esbanier;

De la cité es chans eissirent,

A plusurs gieus se departirent;

• • •

Les dames sur les murs muntoent

Pur esgarder cels ki juoent;

Ki ami aveit en la place

Tost li turnot l'oil e la face.

Mult out a la curt jugleürs,  
 Chanteürs, estrumenteürs ;  
 Mult peüssiez oïr chançuns,  
 Rotruenges e novels suns,  
 Vieleüres, lais de notes,  
 Lais de vîèles, lais de rotes,  
 Lais de harpes, lais de frestels,  
 Lires, tympes e chalemels,  
 Symphonies, psalteriuns,  
 Monacordes, timbes, coruns.  
 Assez i out tresgeteürs,  
 Joeresses e jugleürs ;  
 Li un dient contes e fables,  
 Alquant demandent dez e tables.

· · · ·

Assez souvent noisent e crient ;  
 Li un as autres souvent dient :  
 "Vus me boisiez, defors getez,  
 Crollez la main, hochez les dez !  
 Jo l'envi avant vostre get !  
 Querez deniers, mettez, jo met !"  
 Tels i puet aseeir vestuz  
 Ki al partir s'en lieve nuz.

W. II. 10521—10524, 10539—10556, 10581—10588

Wace の賑やかさに比べて Layamon の余興の描写は次のようにある。彼は苦々しい気持で Wace の騒騒しさを削ったのであろうか。彼の興味は専ら Arður にかしづく廷臣達の群像と競技の晴れの勝者が、アーサーより褒賞を授かることである。

þa þe king iȝetē hafde  
 and al his mon-weorede.  
 þa buȝen ut of burhȝe  
 þeines swiðe balde.  
 alle þa kinges  
 and heore hereþringes.  
 alle þa biscopes  
 and alle þa clærckes.  
 alle þa eorles  
 and alle þa beornes.  
 alle þa þeines  
 alle þa sweines.  
 feire iscrudde  
 helde ȝeond felde.

L. ll. 24681—24694

Monianes kunnes gomen  
 þer heo gunnen driuen.  
 & wha swa mihte iwinne  
 wurðscipe of his gomene.  
 hine me ladde mid songe  
 at-forē þan leod-kinge.  
 and þe kig for his gomene  
 ȝæf him ȝeuen gode.  
 Alle þa quene  
 þe icumen weoren þere.  
 and alle þa lafdies  
 leoneden ȝeond walles.

to bihalden þa duȝeðen  
 and þat folc plæie.  
 Þis ilæste þreo dæȝes  
 swulc gomes & swulc plæȝes.  
 Þa a þā ueorðe dæie  
 þe king gon to spekene.  
 and aȝæf his gode cnihthen  
 al heorere rihten.  
 he ȝef feoluer he ȝæf gold  
 he ȝef hors he ȝef lond.  
 castles & claðes eke  
 his monnen he iquende.  
 þer wes moni bald Brut  
 biuoren Arðure.

L. II. 24705—24730

饗宴がおひらきになるとアーサー王は持前の気前の良い寛大さを發揮して  
 賓客に贈物をする。再び Wace の筆はとゞまる所を知らぬ程滑らかにな  
 り、得意の repetition でアーサー王の引出物を列挙する。

Treis jurs dura la feste issi.  
 Quant vint al quart, al mecreysi,  
 Li reis ses bachelers feufa,  
 Enurs delivres devisa;  
 Lur servises a cels rendi  
 Ki pur terres l'ourent servi;  
 Burcs duna e chasteleries  
 E evesquiez e abeïes.  
 A cels ki d'altre terre esteient,

Ki pur amur al rei veneient.  
 Duna cupes, duna destriers,  
 Duna de ses aveirs plus chiers.  
 Duna deduiz, duna jouels,  
 Duna levriers, duna oisels,  
 Duna peliçuns, duna dras,  
 Duna cupes, duna hanas,  
 Duna palies, duna anels,  
 Duna blialz, duna mantels,  
 Duna lances, duna espees,  
 Duna saietes barbelees.  
 Duna cuivres, duna escuz,  
 Ars e espiez bien esmoluz,  
 Duna lieparz e duna urs,  
 Seles, lorains e chaceürs.  
 Duna haubercs, duna destriers,  
 Duna helmes, duna deniers,  
 Duna argent e duna or,  
 Duna le mielz de sun tresor.  
 N'i out hume qui rien valsist  
 Qui d'autre terre a lui venist  
 Cui li reis ne dunast tel dun  
 Qui enur fust a tel barun.

W. II. 10589—10620

祝宴の4日目、Arturは騎士見習の従者に恩賞を与え官職封を分かち、領地を司って彼に仕えた者には城市や城を与え、司教区や修道院を与えた。外国から敬意を表して王のもとに参じた面々には盃や軍馬やとアーサーの高価な財宝を与え彼等に満足と喜びを与えるのであった。贈物の品目は、グレ

一ハウンドあり，鳥あり，毛皮裏付き外套，衣服，大盃，高台付酒盃，上衣，指輪，チュニック，マント，槍，刀，矢，逆刺，真鎌，三角楯，弓，研ぎすました矛，レオパード，くま，段梯子，甲冑，房付鞭，鎖かたびら，馬，かぶと，デナリウス銀貨，銀，金等々であった。大層なものでなしである。

*Layamon* と比べてみよう。彼はもう *Wace* に従ってゆけない。彼は口調も構文も其尽に ‘he ȝef seoluer he ȝæf gold’ (*L. l.* 24725) [cf. ‘Duna argent e duna or,’ (*W. l.* 10615)] と *Wace* を写し始めるが，*Arður* は銀や金を与え，馬や土地を与え，城や衣服も与え彼の臣下を喜ばせた (*ll.* 24725—24728)。と，このあたりでぶつり *Wace* のお喋りを削除してしまう。戴冠式の豪華な *Arður* 宮廷の雰囲気は終幕に近付くと *Wace* の賑々しさに比べて急に貧弱にみえてくる。が然し *Layamon* は賑やかな管絃や悪巫山戯や騒々しい宫廷や止まる所を知らぬ有様の饒舌はアーサー王と廷臣達の威儀を傷つけるとでも考えて，敢て *Wace* の賑やかさを抹殺した模様である。我々は此処に *Wace* と *Layamon* の歴然とした相違を認め得る。

*Wace* のこの際限なしのお喋りは極めてフランス的な特徴と言えるであろう。武勲詩の *Chanson de Roland* にも既にそれは認められるし，中世隨一の詩人ヴィヨンや，ルネッサンスの華，ラブレーの「ガルガンチュア・パンタグリュエル物語」にも顕著な ‘verbiage’ の一面である。つまり，*Roman de Brut* に於てみられる極立った *Wace* のフランス人的嗜好は騎士道華やかな世界に具現される *courtoisie* ではなくて，それは，いすれば生真面目で沈鬱なアングロ・サクソンの国民性を変化させ，*Merry England*<sup>16</sup> の出現に影響を与えることになる *Norman gait*<sup>17</sup> なのである。

### —— 結 語 ——

我々は以上五項目に分けてワースとラーヤモンのテキストを対比させて来た。その結果，*Brut* の世界が双方共多分に *heroic age* の伝統に則とっ

た英雄時代の社会である事に気付く。ワースとラーヤモンの描く王侯の肖像は英雄時代に広く共通していた、いくさ人の社会倫理、美德を具えているから、彼等の英雄のイメージは一致するのである。ワースがロマンスの洗練された騎士の住む社会を *Roman de Brut* に描き、ラーヤモンは O E poetry に見られるような古いアングロ・サクソン風の世界に住む粗野な武将の社会を彼の *Brut* に創り出していると考えるのは妥当ではない。野蛮な心を持つと言われるラーヤモンの ferocity<sup>18</sup> はラーヤモンひとりに限らずワースにも又認め得るものである。

貴婦人の愛を得るために騎士道に励むという *esprit courtois* の woman-worship の精神はワースの中に認められるのだが *Roman de Brut* の全詩行を眺める時、その数行の言及を以てワースの特徴は courtly sentiment<sup>18</sup> であると言える程重要視出来るものではない。

女性に対する愛情や優しさを描く点ではラーヤモンは控目でこそあれワースに習って恋愛描写を行なっている。

ラーヤモンがワースより more archaic であって less sophisticated であったと言う時、それが O E poetry の伝統を強く受継いだ言語から受ける印象であるのは言う迄もないが、又一面それはラーヤモンの生真面目で冗談や駄洒落を言わぬアングロ・サクソン氣質にも由来するものである。less sophisticated なラーヤモンの世界とは、即ち軽味のある、巫山戯た、賑やかなノルマン風のワースの気心を写し取れなかつた所にあると私は思うのである。

日本英文学会第42回大会に於て 昭和45年10月31日発表

### 注

1 Dorothy Everett, *Essays on Middle English Literature* (Oxford, 1955), pp. 35—37.

also see: R. S. Loomis, "Layamon's Brut," *Arthurian Literature*

*in the Middle Ages* (Oxford, 1961), pp. 110—111.

W. H. Schofield, *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer*, reprint (New York, 1969), pp. 351—352.

- 2 清水あや, 「アーサー王伝説研究」, 研究社, 1967, p. 34.
- 3 Loomis, *Op. cit.* pp. 107—108.
- 4 *Selections from Layamon's Brut*, preface by C. S. Lewis, ed. by G. L. Brook (Oxford, 1963), p. viii.
- 5 Schofield, p. 351.
- 6 Wace の作品の引用は *Le Roman de Brut de Wace*, ed. by Ivor Arnold (Paris, 1934) に拠り, Layamon の作品の引用は *Layamon's Brut*, ed. Sir Frederic Madden K. H. (London, 1847) に拠った。Wace よりの引用には W., Layamon よりは L. の略記号をしるし, 引用文は各 lines を示した。
- 7 ‘curteis’ は既に武勲詩 *Chanson de Roland* に見られる。‘Oliver li proz e li curteis,’ の如くに使われていた。‘curteisie’ が現われるのは12世紀頃である。アーサー宮廷の礼節正しき有様を述べるこの言葉は Wace にはまだ3回しか出て来ない。
- 8 see: Wace *ll.*, 10770—10772 (66頁の引用文参照)

当時のアーサー宮廷の騎士達は三たび戦って腕をためし騎士として立派な資格を証明出来なければ女性の愛は得られなかつた。このことは Wace も Layamon もしるしている。W. *ll.* 10511—10520, L. *ll.* 24661—24680. Wace が ‘Ja peüst aveir druerie/Ne curteise dame a amie,’ (*ll.* 10513—14) と必ずしも結婚を対象としない ‘druerie’ を使っているのに対し Layamon は腕をためした ‘cniht’ でなければ高貴な婦人は ‘lauerd’ に選ばなかつたし, ‘hif oht-scipen icudde’ (*ll.* 24671), 彼の勇敢さを明らかにした騎士だけが花嫁を求めることが出来たのだと言う。この場合 Wace も Layamon も女性の愛を獲得するた

めの騎士の資格を問題にしている。Layamon は女性への礼讃を描かないわけではない。然し両者の間には微妙な違いが認められる。Wace の詩は *amour courtois* を思わせる。Layamon は Wace の詩行をうつし取ってはいるが騎士と婦人の関係を結婚を対象としたものに翻訳している。

9 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, Introduction by Gwyn Jones, trans. by Eugene Mason, (Everyman's Library, 1966) p. 43.

10 'pris' Tobler-Lommatsch, *Altfranzösisches Wörterbuch*, 参照。然しながら Mason の現代語自由訳から 'one of Love's lovers' という phrase をとってきて、それがまたかも Wace のアーサーのイメージであるかのように紹介している C. S. Lewis には承服できかねる。see: *Selections from Layamon's Brut*, ed. by G. L. Brook, *introduction* by C. S. Lewis, (Oxford, 1963), p. ix.

11 Gwyn Jones, p. xii.

12 see: boast-uttering (W. *ll.* 9317—9336) (L. *ll.* 19980—19995, 20102—200119)

boast-performing (W. *ll.* 9337—9356) (L. *ll.* 20070—20081., 20120—20145)

hostage-hanging (W. *ll.* 9261—9262) (L. *ll.* 21101—21109)

13 L. *ll.* 22827—22846.

14 Loomis, p. 107. 裏切者の耳や鼻をそぎ落し、女達を宙吊りにする話は既に古く、「オデュッセイア」に出ている (X II)。

15 Everett, pp. 35—36.

16 アングロ・サクソン気質を変化させた *Merry England* 出現の背景は厨川文夫博士の「中世の英文学と英語」, 研究社, 1962, pp. 149—156 に詳解されている。

- 17 アーサーの戴冠式を控えて、活気あふれる Caerleon の準備にせわしく賑やかな描写もその一つの特徴と言えよう。
- 18 Wace は ‘courtoisie’ を学びつゝある社会に語りかけているのだと Gwyn Jones は言う。 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, p. viii. *Brut* の中で Wace の ‘amorous sentiment’ を過大視することは出来ない。see: Charles Foulon, “Wace” in *Arthurian Literature in the Middle Ages*, p. 101.
- 更に, *La Partie Arthurienne du Roman de Brut*, eds. I. D. O. Arnold et M. M. Pelan (Paris, 1962) の Introduction には, 理想の王として Wace が描いた Arthur と Charlemagne のイメージとの類似が指摘されている。see: pp. 30—31. 、